

県連ニュース

2025年2月 NO-571号



滋賀県勤労者山岳連盟

2025年2月号 目次

リレーエッセイ 「経験と逃げる山の間で」 山の会オフトレイル N.T.

<案内>

3月2日 第49回定期総会 午後1時30分～

3月2日 講習会「山行計画と読図」 午前9時30分～12時

3月30日 4月12日「読図講習会」 9時～座学 午後 実技

<報告>

CSS報告 12月15日 岩トレ 報告

CSS報告 12月27日～29日 燕岳山行

CSS報告 ビーコンテスト

「近畿ブロック自然保護委員会(リモート会議)」報告12月20日 自然保護部 田中 武範

第10回 ZOOM理事会 議事録

ぐうたら会長のつぶやき

行事予定表

「光に浮かぶ深南部の山々-存在の濃淡そのもののように」

撮影日 2024.8.12

提供者 山の会オフトレイル N.T.

経験と逃げる山の間で

山の会オフトレイル T.N.

山というものはつくづく多くの経験が必要なのだと思います。

一度歩いただけではその山のごく僅かな部分に触れるに過ぎませんし、ルートを変え、季節を変えて歩いてもその都度山は表情を変え、ますます多くの未知の部分を出してきます。

それでもそうして何度も通う内に、路面の感覚、風の流れ、湿り気、音、匂い、植生の移り変わりを何度も感じ取り、目にする1コマ1コマを繰り返しながら、少しずつその山に馴染んでいくのではないのでしょうか？

これが簡単にアプローチできない山域だと、なおさら馴染むまでに年月が必要になるでしょう。

そしてそれを実行するための技術や知識を習得するための時間も必要になります。

特に、様々なリスクを適切に評価できるようになり、それに自分の体がどこまで対応できるかがわかってくるまでには、膨大な経験の蓄積を要します。

自分が年間で山に入れる日数を数えてみると、せいぜい40日が限度です。

経験は日数だけでは測れませんが、学生時代から年に百数十日も山に入っている人と比べれば、越えられない壁があるのを感じます。

まして、山に生まれ、山で育ち、山に生きる人々からすれば、一生かかっても冷やかしの域を出ないでしょう。

僕はここ何年か、人の営みから離れ、何者かである以前の生身の生物として接する山の肌触りを求めて、南アルプス深南部と言われる山域に通っているのですが、深南部山行はまずアクセスを調べるところから始まります。

車はずっと昔に手放してしまったので、公共交通機関でのアクセスになりますが、大体夜行バスとローカル線や地域バスを乗り継いで登山口に向かうことになります。

当然ながら地域バスは廃止路線を代替するコミュニティバスが多く、下手をすると週に2便しかないような過疎路線もある上に、頻繁にダイヤ改廃があり、前年までできていた乗り継ぎが不可能になって、1泊ではどうやっても目的地に辿り着けなくなってしまったりすることもあります。

地形図を眺め尽くしてルートを引き、日程を確保して予約可能な夜行バスと乗り継ぎ交通機関の可能な組み合わせを考え、周到に計画を立てると、次は天候の壁が待っています。

深南部は一方通行の崩落の過程にあり、雨や台風になればすぐに地形が変わってしまいます。

タクシーで林道の奥まで入ることもありますが、落石や土砂崩れが年中起こっていて、どこまで行けるかは運次第です。

それどころか、徒歩でも通過できなくなることも度々で、無事入山に漕ぎ着けられるかどうか自体、くじ引きのようなものです。

それに、それなりに厳しいルートなら、気力と体力もそれに見合ったコンディションで臨まなければ、イレギュラーな事態に対応しようにも気合負けしてしまいます。

そうして様々な条件をクリアして深南部山行を無事実行できるのは、多くても年数回です。この山域を庭のように知り尽くすことは永久にできないでしょう。それでも、訪れるたびに少しずつ発見を重ね、親しみを覚えると、通える限りは通い続けたいという思いが強くなっています。

ここ数年はそれに加えて、初級登山教室の講師を引き受けたので、自分自身の経験を伝える立場になりました。

初級登山教室そのものは扉を開けるに過ぎません。

経験を経験として伝えるためには、たとえそれが不十分なものであっても、その後数年、もしかするともっと長くかかるかもしれません。

僕自身が第一線で動ける期間自体がせいぜい後数年と考えると、できることは本当に限られるなというのが実感です。

受講生の安全がかかっていることを思えば、並行して自分自身の経験を深め、技術を高めるための時間も確保しなければなりません。

また、今は会の代表者として会務運営にも携わっています。

オフトレイルは個人主義的色彩の強い会で、他会に比べれば会としてすべきことはそこまで多くないかもしれませんが、人手が少ない分、かえってあれこれ細かい実務に時間を取られる面もあります。

その合間を縫って自身の山行を入れていくにも融通が利かなくなり、ますますものごとの両立（鼎立？）は難しくなりました。

けれども、そのような登ること以外の副次的な活動が山の経験をより幅広いものにしてきているのもまた確かです。

会や教室を運営している限りは、自分がやってきてよかったことを自分の中だけに留めておくよりは、少しでも他の会員や受講生にも味わってもらえるようにした方がいいとも思っています。

山を始めた頃はそんなことは考えませんでした、山は逃げます。

それも年を取れば取るほど、飛ぶような速さで、銀河が光速よりも速く遠ざかるように、二度と手の届かない所へと逃げて行ってしまいます。

捕まえる魔法の網は無いもののでしょうか？

うーん、悩ましい……

山は人の都合など考えてくれないので、結局のところ、できるところまでやってみる、という以外に自分がどのような山人生を送れるか知る方法は無いのでしょうか。

落ちも何もありませんが、それでもめげずに自問自答し、逡巡しつつ今後も山に関わっていきますので、みなさんよろしくお願ひします。

案 内

第 49 回定期総会開催の案内

総会は、会員が代議員として参加できる唯一の議決機関です。みなさまの活発な意見で、これからの滋賀労山の発展にお力をお貸しください。従来の活動にとらわれず、創意を發揮して新たなチャレンジを試み、登山文化の継承と発展、仲間を増やす、特に、世代交代を優先して進める決意です。

下記日程で開催します。ご多忙とは存じますが、ご出席をお願いします。

記

滋賀県勤労者山岳連盟 第 49 回定期総会

- ・ 日時 2025 年 3 月 2 日 (日) 午後 1 時 30 分～午後 3 時 30 分(予定)
- ・ 会場 大津市ふれあいプラザホール 5 階 大会議室
(大津市浜大津 4-1-1 明日都浜大津 077-527-8351)
- ・ 議題 2024年度活動報告、2025年度活動方針 (案)
2024年度会計決算報告、同監査報告、2025年度会計予算案

会議を短時間で終了するため、代議員の方へ事前に議案書・資料集をPDF配信いたします。出席の方には、当日印刷してお渡しします。

会議の進め方としては、議案書(事業報告・計画案)・決算報告・予算案の読みあけての説明は致しません。質疑応答の時間でご質問ください。質問内容については、ご理解いただけるよう説明させていただきます。

1月末までに、代議員の選出をお願いいたします。

代議員数 会員数/代議員数

10名/2名 11名～20名/3名 21名～50名/4名 51名～100名/5名

第49回総会役割担当 議長/ちごゆり・岳友会

資格審査/オフトレイル

選挙管理/山友会・雪稜会

★ 所属会に案内状と委任状をメールで送信します。

★ 理事交代の場合も、1月末までにご連絡をお願いします。

事務局まで

2025年 滋賀県勤労者山岳連盟講習会「山行計画と読図」

山というリスクの多い場所を安全に歩くためには、十分な下調べが必要になります。それを書面にまとめたものが山行計画書（登山計画書）ですが、計画書作成の際に中心となるのが地形図を読むという作業です。

と言っても、そんなに複雑なことをするわけではありません。

当講習では、山行計画作成のポイントと、地形図の読み方の基礎について、整理してご説明したいと思います。

少しの準備で山歩きがより確実なものになることと思います。

◆ 開催日 2025年3月2日（日） ◆

時間 9:30～12:00（受付9:15～）

場所 明日都浜大津（大津市浜大津4-1-1） 5F ふれあいプラザ大会議室

参加費 500円（滋賀労山会員は無料）

【講師】 山の会オフトレイル代表 信森 徹

【お申し込み・お問い合わせ】

滋賀県勤労者山岳連盟

shigarosan@gmail.com（Eメール）

または 070-9002-3325（宮内）



2025年 滋賀県勤労者山岳連盟主催 読図講習会

遭難の大きな原因の一つは道迷いですが、目印の少ない山を迷いなく安全に歩くには、地形図であらかじめルートの特徴を把握しておき、実際の地形と照らし合わせながら歩くことが大切です。

スマートフォンの地図アプリを使いこなすためにも、読図の知識が必要になります。読図は苦手、という方も多いようですが、仕組みから理解すれば意外にすんなりとコツがつかめ、応用が利くようになるのではないかと思います。

当講習は各回独立した講習で、午前中の座学を元に午後は実際に山を歩いてみます。1回では覚え切れない、という方は、重複受講も可能です。

◆ 第1回 3月30日（日）

時間 9時～16時（午前座学・午後実技）

場所 [座学] 明日都浜大津 1階大会議室 [実技] 場所未定（大津近辺の低山）

定員 10名

参加費 1,000円

◆ 第2回 4月12日（土）

時間 9時～16時（午前座学・午後実技）

場所 [座学] 明日都浜大津 1階大会議室 [実技] 場所未定（大津近辺の低山）

定員 10名

参加費 1,000円

予備日 4月19日（土）

第1回、第2回のいずれかが中止になった場合、この日に振り替えます。

※ 定員に達し次第締め切らせていただきます。

※ 必ずベースプレートコンパスをご持参ください。

※ 実技は各自ハイキング保険に加入の上、ご参加ください。

※ 当日雨天等で屋外実技が不適と判断した場合は机上登山に切り替えます。

【講師】 山の会オフトレイル代表 信森 徹

【お申し込み・お問い合わせ】

滋賀県勤労者山岳連盟

mail:shigarosan@gmail.com または 070-9002-3325(宮内)



CSS 岩トレ報告

山の会オフトレイル 信森 徹

県連 CSS で、金毘羅の岩場にマルチピッチ練習に行きました。

今年の初級登山教室受講生 M さんにリードシステムを覚えていただくことと、ベテラン H 本さんに長いブランクを埋めるべく最新ギアの扱いに慣れていただくことが目的です。

朝集合場所の堅田駅に降り立つと、比良がかなり下まで白く雪を被っています。

去年同時期よりかなり本格的な積雪になっていそうです。

幸い、現地に行ってみると少なくとも標高 300m 以下は完全に緑のまま、日も当たっている、何とかかなりそうでした。

早速江文神社のトイレ前で装備を整え、岩場に向かいます。

余談ですが、報告者は、江文神社のトイレに電気が点くことを最近まで知りませんでした
……

さて、練習です。

リードはまず確実な支点を作れなければ務まりませんので、登る前にその確認をしました。

今回はシステム練習ということで、登りの技術が必要無い Y 懸尾根で実施しましたが、まともな人工ボルトがほとんど無いので、主に立木を使った支点構築を練習します。

M さんには、初級登山教室ではあまり取り扱わなかったカラビナへのロープクリッピングも練習してもらいました。

次にペアを組んで、目の行き届く近さでビレイステーションを作ってもらい、実際に引き上げ操作をしてもらいました。

報告者は M さんと、H 川さんはベテラン H 本さんとペアになり、セッティング、動作を確認します。

その他、M さんには次のクライマーの登攀ルートを考えたビレイポジション取りをすることや、ゼロピンの取り方、引き上げたロープを振り分ける際のコツなどもお伝えしました。

それが済んだら、いよいよ実際にマルチピッチで登ってみます。

通称つるべ方式で、リード・フォローが入れ替わりながら、3 ピッチほど上まで登りました。

お昼休憩の後、懸垂下降を繰り返して取り付きまで下りました。

今回はブッシュの多い場所という想定で、ロープダウンせず腰に吊り下げて少しずつ繰り出しながら下降する方法を練習してもらいました。

H本さんは、懸垂下降でバックアップを付けると途中で手を離せて便利だったそうです。

マルチピッチシステムをきちんと原理から身につけられる場というものがなかなか無いので、どれだけ時間を取れるかわかりませんが、今後もCSSで継続して練習できるようにしていきたいと思います。

また、岩場では必須の引き上げシステム、懸垂からの登り返し、カウンターラベル、自己脱出などの技術も少しずつCSSで取り上げていきたいと思いますので、ご興味のある方はご参加ください。

金毘羅の岩場まで行くまでに、車窓から見える山は雪化粧していました。

現地では、日があたると暖かく、しっかりリード練習できました。

講習は肝心な所をまずギアで練習し、短いピッチで登って支点作り等を見てもらい、次は長いピッチで登って一人でやってみる…というシステムで、覚えがわるい私にとっては大変ためになる丁寧な指導でありがたかったです。

ギアのメリット・デメリットも最初は『なんのこっちゃ』と聞いていたのが、ふむふむと理解できるようになってきています。

慣れてきた頃が一番キケンなので、安全登山のため皆さんとまたこのような講習ができれば、と思います。

改めて感謝！申し上げます。

(M)

「現行のクライミングデバイスの使用方法を教えます」との甘言に釣られ、ノコノコと参加させて頂きました。

40年近く前の化石のようなデバイスで登っていた者からすると魔法のような代物、セカンドの確保、懸垂下降の際、手を離しても落下しない、握力が無くても十分な制動力が担保出来る・・・

死なずに登山を継続出来るように、今後はクライミングショップにも顔を出してみようと思いました。

(H本)

CSSの活動に初めて参加させて頂きました。

と言っても初級登山教室の続きの流れとなっていますが。

今回は短いピッチで何度もマルチピッチのシステムの練習ができました。

お互いのすべき事が丸見えなので習得するには最適な形だったと思います。

今後も色々できるといいですね。

ご参加の皆さんありがとうございました。

(H川)

2024年12月15日

参加者：N、H川・M（滋賀山友会）、H本（ちごゆり山歩会）



ビレイ練習中の M さん



H 本さんルベルソでの初懸垂下降



M さん懸垂下降



お世話になった支点の木



対岸の景色

CSS 燕岳山行報告

日:2024年12月27~29日

メンバー:滋賀山友会(川口辛二・坂口郁子) 湖南岳友会(平山勝規)

行程

27日6時野洲駅→10時30宮城ゲート→11時登山開始→15時中房温泉テント場

28日7時30中房温泉→第一ベンチ8時30→9時30第二ベンチ→10時30第三ベンチ→14時30燕山荘

29日7時燕山荘→合戦小屋→中房温泉→温泉→20時野洲駅

今回なぜ燕岳山行を計画したのか覚えていません(笑)と言うのも今回2回目のチャレンジになるのですが、前回の13km林道歩きがしんどくてもう冬季には来ないと思っていたからです。人間は良くも悪くも忘れる動物だと認識しました。

さて今回も例の13kmの林道歩きから始まるのですが、前回と違い雪が多く車道全体が雪に覆われていて歩きにくい上にテント泊装備を背負っているので大変でした。しかしながら所要時間4時間半は上出来でしょう。

中房温泉(テント場)に着いたら受付をしテントを張るのですが、受付の方いわく温泉の地熱で暖かいですよー。前回もそう言われて期待しましたが、正しくはそこまでは寒くないですよー。では無いでしょうか?

まあ気温も-5°C位だったのと地熱の影響でそれなりに快適に過ごさせて貰いました。

あと一つ快適に過ごせたのが、中房温泉で温泉に入れた事です。ここは冬季はテント泊の人も受け入れてくれます。湯上り後は湯冷めを防ぐ為に地熱床暖の効いた談話ル

ームで一杯飲みながらくつろがさせてもらいました。テントに戻るタイミングが難しかったですが(寒)

次の日は行程を考えると朝一ラッセルは避けたかったのでゆっくり出発。まあ急ぐことも無いので・・・。

雪はあれども合戦小屋までは樹林帯なので特に問題なく上がってこれました。問題はここからですがいい天気でも有りませんが大荒れでも無かったので多少苦労はしましたが順調に足を運べました。



ただ小屋直下辺りまで来ると風がすごくゴーグルと目出帽が無いと大変な状況でした。最後の急登は大変でしたが、登ってしまえば温かい小屋です。



小屋ではスタッフの方が親切に迎えてくれて尚且つお土産までいただきました。ありがとうございました。

小屋の外は -12°C 程でしたが中は快適でゆっくり過ごす事ができ食事もおいしくやっぱり小屋やで〜って思わず言ってしまいました。

全体を通して天候が悪かったので燕岳は踏めませんでした。満足な年末山行だったと思います。燕山荘→中房温泉+林道 13 km 下山後はお約束の温泉&そばを堪能し帰宅しました。

○一口感想

・滋賀山友会（坂口郁子）

冬の北アルプス、登山口までの 13km の車道歩き、冬装備を詰め込んだ 17kg を超えるザック、厳冬のテント泊・私の身体と気持ちは持ち堪えられるのか?! 不安ばかりが募ったがそれでも雪の燕岳と燕山荘に行ってみたいという思いと信頼できるリーダーへの安心感が背中を押した。

道中は想像以上の過酷さ。長くて重くてつらい雪の車道歩きでは、これまでの人生で自分にとって大切な人の顔を一人一人思い浮かべたりした。(死ぬんか!) 登山口から先もずっとキツかったが、雪舞う急登の先に燕山荘がぼんやり見えたときに泣きそうになった。もう無理かなと思ってから人間はまだ結構頑張れるのかもしれない。身体



の全ての細胞がフル稼働している感じは嫌いじゃない。新雪をワカンで踏むときのキュッキュツという音が心地よく耳に残っている。

同行の川口さん、平山さん、ずっと助けてもらいありがとうございました。

・湖南岳友会（平山勝規）

中房温泉までの長いロードは試練でしたが、忙しい年末とは対照的な静寂の雪山を満喫しました。一年の登り納めに相応しい登山でした。

CSS ビーコンテスト報告

山の会オフトレイル T.N.

2025年1月13日、山の会オフトレイルTN、滋賀山友会SK・KHで、琵琶湖東岸の帰帆島でビーコンテストを行ってきました。

ビーコンは詳しくはアバランチ（雪崩）ビーコンと言い、海外ではアバランチトランシーバーという呼称が一般的です。

今回のテストは、ビーコンの一般特性と各社ビーコンの操作性や癖を確認することが主な目的です。

集まったビーコンは、MAMMUT Barryvox、Barryvox2、ARVA Neo+、ORTOVOX Zoom+、PIEPS DSP std です。

いずれも3アンテナデジタルビーコンです。

PIEPS DSP std はモデルとしては古いのと、Backcountry Access 社の製品が無かったのが残念ですが、まずはバラエティに富んでいました。

ビーコンは、長辺方向に沿って発信アンテナが内蔵されており、発信モード時は約1秒間隔で電波を発し、末尾の図のような磁束線（フラックスライン、点線）を形成します。受信側のビーコンには、磁束線の向きに沿った方向と距離が示されます。

テストは、まずビーコン1台を発信モードで平置きにし、他のビーコンは受信モードにして発信ビーコンの長辺の方向にまっすぐ近付き（末尾図のA方向）、表示が安定する距離をチェックしました。

発信ビーコンZoom+、受信ビーコンBarryvox、Barryvox2、Neo+では、いずれも45m程度で安定しました（顕著な金属物・電磁波発生機器は近接していないと思われます）。発信ビーコンBarryvox2、受信ビーコンZoom+、Barryvox、Neo+では、Zoom+のみ5m程短い40m程度で安定しました（他2機種は最初と同様）。

次に、ビーコン1台を発信モードで平置きにし、他のビーコンは受信モードにして発信ビーコンの短辺の方向にまっすぐ近付き（末尾図のB方向）、上と同様に表示が安定する距離をチェックしました。

結果はいずれも、最初のテスト-5m程度で安定しました。

その次に、ビーコン1台を発信モードで立てて（地面に垂直）置き、同様にテストすると、安定位置は上の短辺置きとほとんど変わりませんでしたが、近付いていくと表示が不安定になるゾーンがありました。

理由はわかりませんが、特に受信ビーコンの側面側に向かって近付いた時、暴れが大きくなる傾向がありました。

その後、さらに広いグラウンドに場所を移し、古い DSP std の点検も兼ねて、実際の搜索手順に従ってシグナルサーチ→コースサーチ→ファインサーチ（クロスサーチ、同義ではありませんが）を行ってみました。

DSP std を発信モードにして Barryvox、Barryvox2、Neo+、Zoom+で搜索しましたが、いずれも正常に発見できました。

ただ、Zoom+は他に比べて若干方向インジケータの安定が悪く時々急に違う方向を指すことがありました。

Neo+を発信モードにした場合も同様でした。

いずれにしても、磁束線に乗ったと思われたら、インジケータのみに頼るのではなく、磁束線の収束方向を予想して進む必要があります。

DSP std での搜索に関しては、古いからか反応がワンテンポ遅く、使えないことはありませんが他に比べると使い勝手はやや落ちる印象でした。

また、途中まで距離表示がかなりずれていたのも、校正が必要かもしれません。

その他、機種個別の癖として、クロスサーチの際、Barryvox2 は目標物への接近時の反応はリニアですが、目標物を行き過ぎてから戻る際の反応が遅く、数値がなかなか減少しない傾向にありました（意図的にそういう設計になっているかもしれません）。

この点、Neo+はどの方向に対しても反応が早く、クロスサーチでの使用感は素直でした。また、これは仕様上の問題ですが、Zoom+は受信モードにしてから2分間で自動的に発信モードに復帰してしまい、これを設定で解除することはできないので、搜索時に注意していないと混乱をきたします。

最後に、複数埋没者の搜索をシミュレートしました。

それぞれの埋没者の距離は3m程度です。

搜索は古いNeo+、マーキング機能の無いZoom+以外で行いました。

いずれの場合も、2人までの搜索はマーキング機能が適切に働き、比較的スムーズに搜索が行えましたが、3人となるとどの機種でも表示が混乱することが多く、操作する側にも熟練が要求されるように思いました。

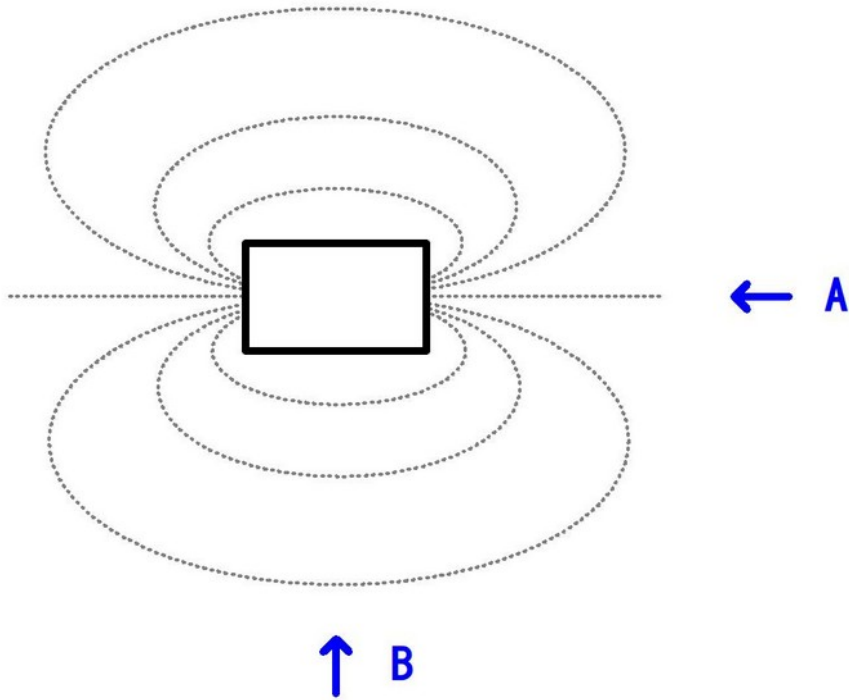
昨年受講したAvSARの基礎講習でも、割合の多い単独または2人までの埋没事故の救出率を上げることがまず大切、と言われていたことから、ひとまず2人までの搜索が確実にできるのを目標に、トレーニングを行うのがよいだろうと思いました。

あまり厳密なテストとはなっていませんが、全体としてビーコンの動作特性を理解し、各機種固有の動作や操作上の癖を把握するという当初の目的は、おおよそ果たせたか思います。

今回は機材テストの意味合いが強かったので参加者募集はしませんでした。初級登山教室で取り扱っていない雪山の基礎技術も今後CSSで取り上げていければと思います。



テストしたビーコン



ビーコンの磁束線（フラックスライン）

近畿ブロック自然保護委員会議（ZOOM）報告

2024年12月20日19時～21時

和歌山：山入、大阪：澤村、京都：平尾、奈良：由良、高橋、兵庫：中原、須増、滋賀：田中

京都府労山

- ・北陸新幹線延伸問題
 - ・府庁前宣伝 11/26 8:00～
「知事は一本化の同意を与えるな！同意の言質を与えるな」
 - ・与党PT、国交省、府・市への手紙や申し入れ
 - ・京都府知事への合同申し入れ 12/6
 - ・署名活動（目標 1 万筆……現在 9 千数百筆）→現在の署名書の内容が環境アセスの準備書に対しての要求であり、準備書が出されるまでに事業者に送付する必要がある。
 - ・延伸ストップ市民デモ 12/3 京都市役所前～円山公園
- ・自然保護セミナー
11/30 中池見湿地の新幹線建設に伴う自然環境破壊と小浜京都ルートの問題について
講師：福田 真由子氏（公益財団法人日本自然保護協会）
（滋賀からも近藤さん参加）
- ・第 50 回クリーンハイク
全国連盟へ報告済み
- ・自然観察会
- ・八丁平観察
八丁平を通る林道建設計画の反対運動により、八丁平の入り口で止めた経緯があり、毎年京都府連で観察会を実施。
放射線量測定も行っている。
- ・その他 NO2 測定（2年に一回実施）、土壌調査（深さ 10 c mでいいのか検討中）

兵庫労山

- ・「兵庫の山からごみを一掃する運動」
- ・労山の森の作業（11月21日5名参加）
- ・労山としての水質調査は傘下の山の会で全て実施済み
- ・東の森の森作り活動に参加（2名、作業時間2時間20分、アクセス道の整備）
“淡路島に風力発電が15基ぐらい設置されているが、環境面等学習する必要があると感じる。”
- “六甲山のトイレ問題について、登山者に山の麓で事前に用を済ませるよう案内する必要があると考えている”
- “労山配布のチラシに携帯トイレのことも書いているが、トイレ用ブースの設置を広める必要と考える”

和歌山労山

- ・中紀ウインドファーム事業（風力発電）は海側約70基既に稼働しているが護摩壇（ごまだん）山に向けて更に25～26基計画されている。知事も懸念（反対）の意向。反対の署名4,000筆が提出

- された。和田タケシさんを講師に講演会を開催したが、(労山会員に)署名協力をお願いしたい。
- ・白馬(しらうま)山地に計画されているメガ太陽光発電所は、中止されたわけではない。

奈良労山

- ・山でのトイレ問題についてクリーンハイクの時に使用済みの紙は持ち帰ることや山に入る前にトイレを済ませようというビラを登山者に配布している。
- ・クリーンハイクは、各会の都合の良いとき(年間いつでも)に実施しているが、今年度は11月に全ての会が終了。
- ・クビアカツヤカミキリ(*)の被害が拡大し、吉野の千本サクラも危ないのでは。
- ・高見山のトイレ掃除は先日実施した。
- ・労山として、環境省に登山者の多くなるときに、(携帯トイレ用の)トイレブースを設置するよう要求し続けている。(女性は登山前に済ませていてもどうしてもトイレがしたくなる)
- ・平群のメガ太陽光発電所の建設は続いているが裁判も継続中。先日裁判官が視察に訪れた。裁判の傍聴にも労山会員が行っている。
- ・二上山の産廃(業者はぶどう畑にすると書いていたが)問題、由良さんが水質調査をされている。
- ・水質調査は、保健所が受け入れしなくなったので、今後どうするか検討中。

大阪労山

- ・アルプス等での生きものマークは、雷鳥以外の動物についても呼びかける。
- ・友ヶ島の漂着ゴミ調査(回収)は、令和7年の4, 5, 6月頃に再度実施する予定。

滋賀労山

- ・余呉・南越前ウインドファーム事業、三十三間山風力発電事業、美浜新庄ウインドファーム事業についての進捗状況の報告(資料は先日メール送信済)
- ・余呉・南越前ウインドファーム事業予定地の現況調査山行報告(11月24日実施)

*クビアカツヤカミキリ

サクラ、モモ、ウメ、スモモなどのバラ科樹木に寄生し、幼虫が樹の内部を食べて枯らしてしまう外来のカミキリムシ。2012年愛知県で被害報告され、2023年1月現在13都府県で大きな被害をもたらしている。2018年特定外来生物に指定されている。



近畿ブロック自然保護委員会報告の中でも山のトイレ問題は、課題になっているようです。

」

2024年度 第10回 ZOOM理事会 議事録

日時 2025年1月15日(水) PM8:00~9:00

□出席 田中武・川口・長谷川・加藤・川嶋・濱本・谷内・宮内

□欠席 友永・吉田・藤野

議題

1.2025年度 議案書について検討

・2024年度活動報告案について

組織部 4/13 やまとけいこさん講演会 10月「月間登山祭典」10/20.27 交流山行
教育遭対部 初級登山教室、近畿ブロック搬出訓練 4/6.7 ファーストエイド講習会 11/10
サポーター養成講座 12/8
自然保護部 清掃登山 5/25.26.6/1.2 放射線量測定調査山行 11/4
財政部 連盟費
機関紙部 県連ニュース 12か月発行
ホームページ 一般募集の案内

活動報告については、特に問題点は出なかった。

・2025年度活動計画案

組織部

- ・10月「登山祭典」とする 月間と明記しない。
- ・「祭典」というには、普段の例会とは違う規模の大きいものかと思うが、
- ・昨年の反省から、各会1コースに限らないでコース企画をお願いすることで、一般参加を増やす。
- ・交流山行については、理事から、所属会に企画提出(年2回程度)をお願いする

教育遭対部

- ・近畿ブロック搬出訓練 4/6 の実施要項の案内が遅れている。近畿ブロック代表者会議(2/13)で内容確定される予定。今年度は、ハイキング搬出訓練は、和歌山が担当する。会場も和歌山市内になるだろう。昨年までは、ハイキングレスキューに関しては、各地方連盟で実施する方向で進んでいた。2年前から京都・滋賀合同のハイキングレスキューを実施して、滋賀もスタッフ養成もできたので、今年度も京都・滋賀合同で日程が重ならないように前倒し4/5で実施を考えている。京都との詰めは、川口理事長に依頼する。

自然保護部

- ・放射線量測定調査山行に関しては、理事会で検討する。

財政部

- ・次回までに仮会計報告をする。予算について意見を聞かせてほしい。

機関紙部

ホームページ

4.各部からの報告

機関紙部・・・県連ニュー2月号(1/15㍻切)

○リレーエッセイ・写真 (OT 現在未提出)

○案内 3/2 第49回定期総会

3/2 講習会「山行計画と読図」 一般・会員向け HPアップ済

3/30、4/12 読図講習会 座学と実技 一般・会員向け HPアップ済

○報告 近畿ブロック自然保護委員会リモート会議報告

○第10回ZOOM理事会 議事録

○ぐうたら会長・行事予定表

自然保護部・・・

組織部・・・全国連盟への報告 12月25日 174名で報告(来期の会員数174名)

合計人数 比較 ↓	山友会		岳友会		雪稜会		ちごゆり		オフトレイル		合計			
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性		
	38	42	17	13	22	17	6	11	5	5			88	88
12月/11月	80	79	30	30	39	39	17	22	10	10			176	180
	/	1	/	0	/	0	/	-5	/	0	/	0	/	-4

財政部・・・理事会交通費精算 11/13 代表者会議のみとする。

2025.2./12 代表者会議 3/2 総会 11/12 代表者会議はまでを来期の精算とする。

教育遭対部・・・

・今後の予定 その他

○2025年3月2日 県連第49回定期総会 午後13時30分～ 大津ふれあいプラザ
午前中「山行計画と読図」講習会 午前9時30分～12時

・2月12日までに 会計監査を受ける 会計年度2024.2.1～2025.1.31

・2月12日水曜日第2回代表者会議にて、議案書・会計決算報告・予算案の検討

・2月20日前後に代議員にデータ議案書を配信

(代議員選出と次年度理事交代の連絡は1月末にお願いします。)

・2/26or28印刷 当日配布の議案書・資料の印刷

・3月2日 第49回定期総会 大津ふれあいプラザ5階大会議室 9時～17時

全国連盟関係

第36期第1回評議会 2025年2月15日～16日 府中市 川口理事長 出席

覚え書きメモ

○2025年度原水爆禁止・国民平和大行進(68回目)の県連担当を決める

次回 1月29日 ZOOM理事会 午後8時～9時 開催予定

ぐうたら会長のつぶやき

福田蓼汀さんの「黒部の何処に」を読みました。山好きの息子さんを黒部で亡くして、3回にわたる捜索を多くの人の力を借りて行ったけれど、とうとう遺体は見つからないままになってしまいました。そんな捜索の記録や息子と行った山の思い出などを書かれた本です。

「奥黒部ヒュッテ」から「平ノ渡し」へ向かったまま行方不明になりました。ほんの何十分か前に出発したパーティは無事だったのに、まして小屋から30分ほどもかからない谷で鉄砲水に出あったようです。大量の土砂が上流から流れ出て、登山道がどこにあったかも判らないほど地形もまったく変化してしまっただけです。

大規模な捜索は終わったけれど、父親として何度も息子の遺体を探すために遭難現場に足を運んだようです。思いもよらなかったとはいえ、親より先に逝くのは子として最大の親不孝です。

福田蓼汀さんは俳人です。こんな句を詠んでおられます。「岩に落葉表裏死生のごとくあり」。

本当に生死は葉の裏表のように、紙一重のものですネ。

年老いた親は、様々な子供の思い出を繰り返し、繰り返し、思い浮かべながら、悲しいけれど残された人生を過ごしていくのですね。

そのほかにもいくつか紹介します。

「秋雲も流るる水も鎮魂歌」

「雪山に罪あるごとく重荷負い」

「墓標一基雪と月もて荘厳す」

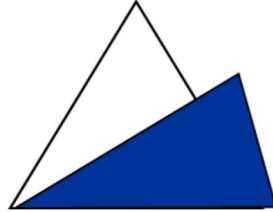
ともに歩いた山々を思い出すたびに、帰らぬ子供の在りし日の面影を思い、泣きたいけれども泣けないわが身をさいなむ。

嬰兒を見れば抱いたときを、幼児を見ればその頃を、学生を見れば入学の喜びを、登山姿の青年を見れば、その中にまじっているようにすぐ思う。

長い歳月、山を歩き、髭が白くなるまで山を攀じて得たものは何であろう。すべてが虚しくただ悲しみだけであつた。

と結んであります。

死はどんな人間にも必ず訪れるものです。もしいるとしたら神は、その死の順番をきちんと守ってほしいものですネ。子供のいない私が言うのも変だけど、子の死は、親にとって運命として受け入れる事は、とうていできないものだと思います。



2025年3月号の原稿は2月15日〆切です。

3月号のリレーエッセイ・写真の担当は滋賀山友会です。

原稿の投稿先 宮内 m-miyauchi@ares.eonet.ne.jp

加藤 cacl109@zeus.eonet.ne.jp

川嶋 f-kawashima@mtb.biglobe.ne.jp

用紙サイズはA4 フォントは本文 11~12、タイトル 14~16、余白は上下左右
19mm とし、写真はJPG、原稿はWORD とPDF 版と両方送信願います。

『県連ニュース 2025年2月 NO571号』

発行日:2025年1月20日

滋賀県勤労者山岳連盟

〒520-0047

大津市浜大津 4-1-1 明日都浜大津 1F
大津市市民活動センタースモールオフィス内
メールボックス NO13

ゆうちょ銀行(店名418)

普通 0239956

<https://www.shigarosan.com/>

Email shigarosan@gmail.com

発行責任者 宮内 眞子

編集委員 加藤二三男 川嶋文男